

# 海産魚類に関する魚病診断結果

榊 昌文

海産魚に関する魚病診断については、これまで県内水面水産試験場（県魚病指導総合センター）で実施してきたが、平成8年度より海産魚類の魚病に関しては、県水産増殖センターが実施することとなった。

## 1. 目的

魚病発生時に適正な治療及び防疫対策を行うため、へい死原因を迅速かつ的確に診断する。

## 2. 材料及び方法

増養殖業者からの検査依頼による検体及び巡回指導時に魚病と思われる検体について、病原となるウィルス、細菌、真菌、寄生虫等の有無について検査した。

ウィルス病については、魚類株化細胞CHSE-214を用いて、細胞変性の観察により判断した。

細菌性疾病については、寒天培地（0.25%NaCl加普通寒天、0.25%NaCl加トリプトソーヤ寒天、0.25%NaCl加ブレインハートインフージョン寒天で培養後、抗血清による凝集反応試験で判断した。

## 3. 結果

表1に魚種別疾病別診断件数を示した。

魚病の診断件数は合計11件で、発生魚種はヒラメ、クロソイ、ホシガレイ、アイナメの4魚種で、大部分は種苗生産及び中間育成中のヒラメの魚病であった。疾病別ではウィルス性疾病の発生は確認されず、主にビブリオ病と滑走細菌症の細菌性疾病であった。また、今年度の魚病の中で注目されるのは、日本海側で問題となっているヒラメ貧血症が、本県の日本海側大戸瀬で漁獲されたヒラメからネオヘテロボツリウム症との合併症で発生が確認されている。なお、大戸瀬のヒラメ貧血症の診断結果は別途報告する。

表1 魚種別疾病別診断件数

平成8年4月～平成9年3月

疾病名	魚種	海面				合計
		ヒラメ	クロソイ	ホシガレイ	アイナメ	
ビブリオ病					1	1
滑走細菌症				1		1
腹水症		1				1
ビブリオ病＋滑走細菌症		3	1			4
滑走細菌＋餌料性疾病			1			1
イクチオボド症＋スクーチカ症		1				1
貧血症＋ネオヘテロボツリウム症		1				1
不明		1				1
合計		7	2	1	1	11